



榎本雅夫 議員



佐屋大橋

橋梁の老朽化対策の取り組みは

質問

市民の生活を守る社会資本である橋梁は、救急車や消防車などが渡れない状況になってはならない。市の管理する橋は大丈夫か。本市の管理する橋梁の現状と取り組みは。

経済建設部長

市内には農道など水路の橋も入ると644橋あり、15m以上の橋梁は58橋ある。58橋については点検しており、点検結果に基づいて長寿命化対

策の修繕工事を現在も施工中である。

橋の経過年数については、昭和37年から46年までの橋梁は9橋、47年から56年までが34橋、57年から平成3年までが9橋、4年から13年までが4橋、14年から23年までが2橋である。

質問

長寿命化修繕計画の進捗状況は。

経済建設部長

平成23年度に8橋修繕が完了した。今年度は3橋の予定である。今後は実施設計書を作成し、10年計画で完了したいと考えている。

高齢者の地域福祉の充実を

質問

市の高齢化率は平成24年4月現在25・35%。ひとり暮らしは1千427人、高齢者世帯が2千163世帯で4千407人である。

本市の見守りにつながる施策の一つである安否確認の活動は。また、孤立死の状況はどうか。

福祉部長

乳酸菌飲料の配布、配食サービスの事業、緊急通報事業、傾聴ボランティア訪問事業や新聞店、牛乳販売店による配達時の異変を感じた時の見守りによる依頼を進めている。

孤立死について、職員、民生委員で把握した人数は、平成24年度が5件である。

質問

緊急通報システムの設置の対象者はひとり暮らしであるが、高齢者世帯や昼間独居の高齢者の調査をして設置の緩和はできないか。また実費負担での金額はい

くらか。

福祉部長

台数は平成24年11月末現在368台。実態調査を行い、該当する場合には設置する。日中独居の方には、実費負担してもらう。機器と取り付け経費は6万4千50円である。

質問

愛西市地域福祉計画のアンケート調査で、「高齢者の介護などに対する支援」が必要と考える人が58・9%と多く、助け合い活動が重要である。市民を対象に介護サポーター養成講座を検討してはどうか。また、ホームヘルパー2級の取得支援への考えは。

福祉部長

介護サポーター養成講座は考えていない。また、市内にはヘルパー派遣の事務所が10カ所あり、各種団体が実施している。支援は考えていない。